

# 小学校高学年における自我状態の特徴と 学校生活満足度に関する検討

高橋昭三 会員番号 6352

交流分析士インストラクター

〒020-0003 岩手県盛岡市下米内1-2-1

電話番号 019-624-1507 携帯電話番号 090-9635-15070

FAX 019-624-1507

## 1 はじめに

本実践報告の目的は、当協会附属「T A 学校教育心の開発研究所」で開発した質問紙エゴグラム S H E 6 0 を用いて小学校高学年（5 年生・6 年生）の自我状態の特徴を明らかにするとともに、自我状態と学校生活満足度アンケート調査（Q-U 心理検査）との関係を検討することである。

## 2 調査方法

### (1) 調査対象

東北地方の小学校

5 年 男子 20 名 女子 28 名 計 48 名

6 年 男子 21 名 女子 24 名 計 45 名

合計 男子 41 名 女子 52 名 計 93 名

### (2) 調査方法

#### ①エゴグラム S H E 6 0 の実施について

報告者自身が、学級活動と道徳の時間 2 時間を使い、「心の成長と自分の個性を知る」をテーマに「T A 学校心の開発研究所」が開発したエゴグラム S H E 6 0 とその授業展開例を用いて、5 年生 2 クラス、6 年生 2 クラスに 2 0 1 4 年 6 月末日に実施した。

#### ②学校生活満足度調査（Q-U 心理検査）について

全国の多くの小・中・高校で実施している河村茂雄氏著作の「楽しい学校生活を送るためのアンケート Q-U 心理検査」（図書文化社発行）を 2 0 1 4 年 7 月初旬に実施した。

この調査は、学級生活のなかでの承認得点（仲間から認められているかどうか）と侵害行為認知得点（いじめや無視されていない）が算出できるものである。実施にあたっては、全校一斉に毎年度実施しているものであり、短学活時において各担任が実施したものである。

それを活用し児童が、学校生活に適応できているか、教員の児童理解・生徒理解、指導方法改善に利用しているものである。この結果を用いてエゴグラムとの相関を検討するものである。

## 3 結果

(1) 小学高学年（5 年・6 年）のエゴグラム S H E の実施結果 (N=93)

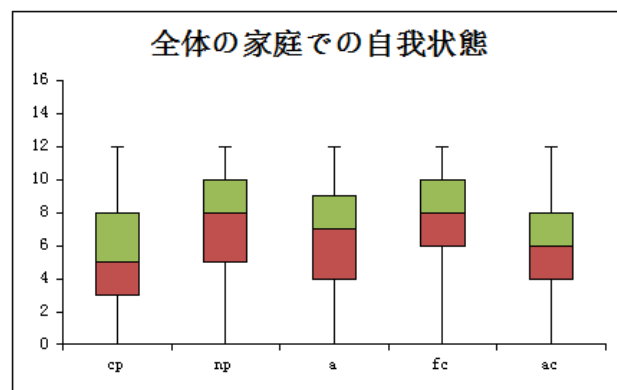
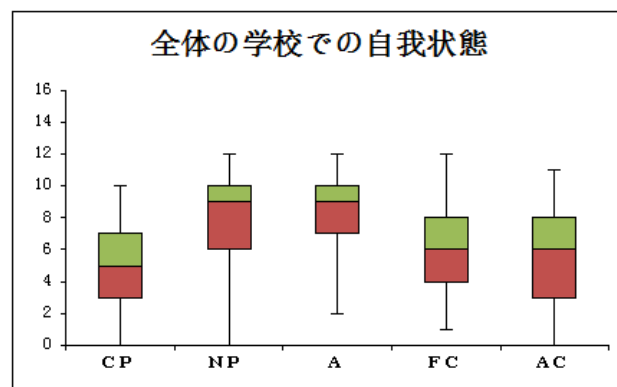
### ①エゴグラムの各機能別の平均状況（満点は 12 点）

【表 1】対象児の学校・家庭エゴグラム平均値

学校	CP	NP	A	FC	AC
男子	5.05	6.57	8.57	5.67	4.88
女子	4.86	8.78	8.71	5.86	6.33
全体	4.95	7.78	8.65	5.77	5.68

家庭	cp	np	a	fc	ac
男子	4.81	7.24	6.26	7.02	5.81
女子	5.38	7.45	6.61	8.37	5.73
全体	5.12	7.35	6.45	7.76	5.76

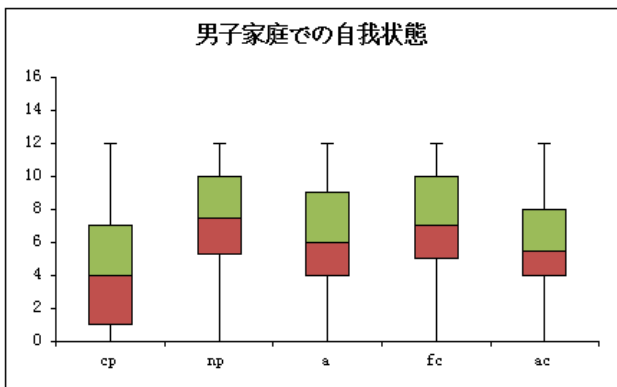
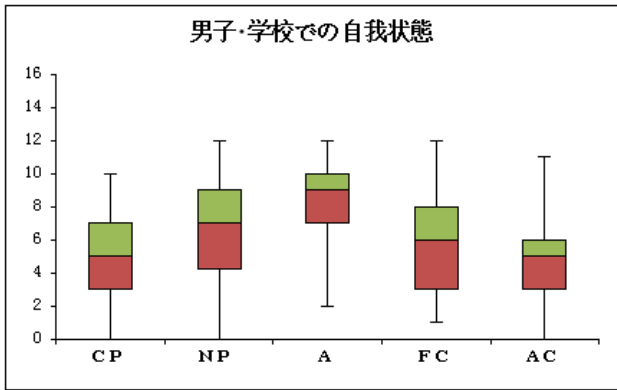
【図 1】対象児全体の学校・家庭の自我状態箱ひげ図



・対象児は、学校では N P 尺度・A 尺度の機能を使っている。

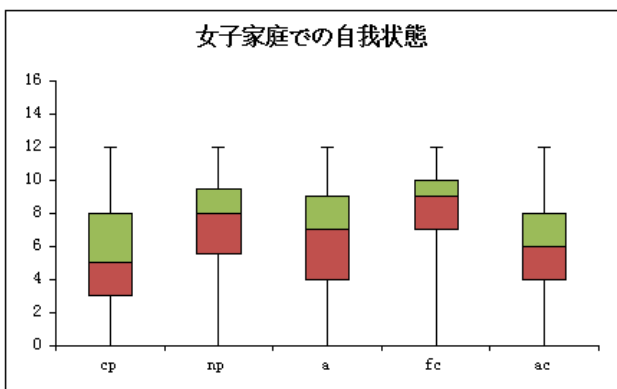
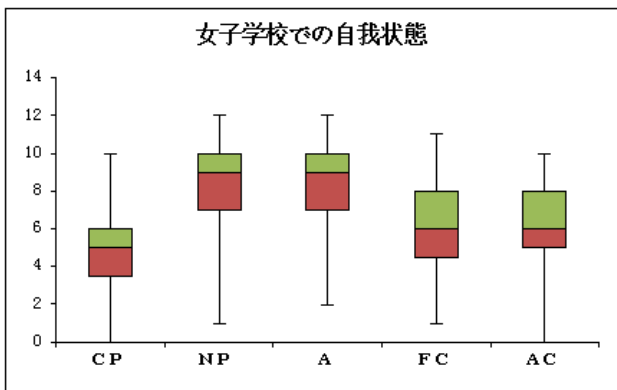
・家庭では N P 尺度と F C 尺度の機能を使っている。

【図2】男子の学校・家庭での自我状態箱ひげ図



- ・男子は学校でA尺度の機能をよく使っている。
- ・家庭ではNP尺度とFC尺度の機能を使っている。

【図3】女子の学校・家庭での自我状態箱ひげ図

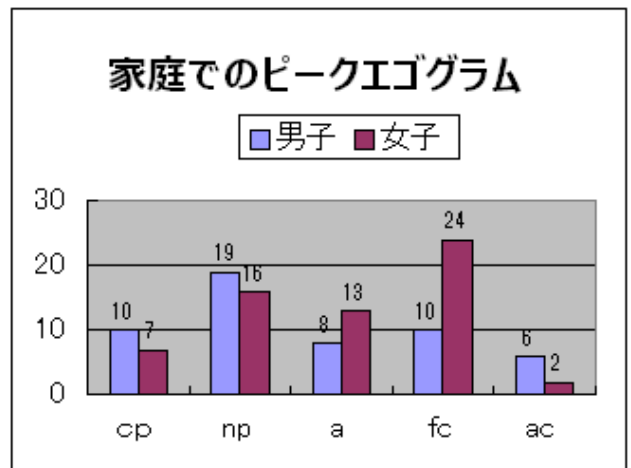
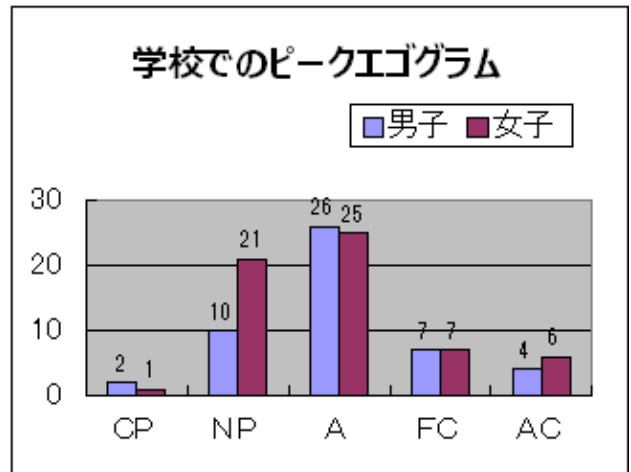


- ・女子は、学校ではNP尺度とA尺度の機能をよく使っている。
- ・家庭では、FC尺度の機能をよく使っている。

②ピークエゴグラムの状況

・個々の児童の一番高い自我状態（ピークエゴグラム）、一番低い自我状態（ボトムエゴグラム）を作成する場合、数値が同点の場合は、それぞれの自我状態をピーク及びボトムとして複数回カウントした。

【図4】学校・家庭でのピークエゴグラム

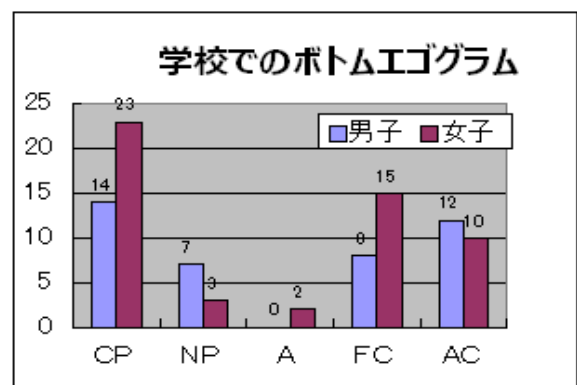


・男子は、学校ではA優位型、家庭ではNP優位型である。

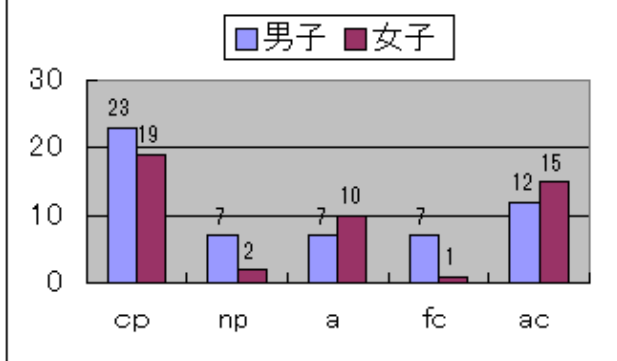
・女子は、学校ではA優位型、家庭ではFC優位型である。

③ボトムエゴグラムの状況

【図5】学校・家庭でのボトムエゴグラム



## 家庭でのボトムエゴグラム



・男子は、学校・家庭ともにCP尺度・AC尺度が使われていない。

・女子は学校では、CP尺度とFC尺度、家庭ではCP尺度とAC尺度が使われていない。

(2) 小学高学年(5年・6年)のエゴグラムSHEの実施結果から言えること

①学校における全体の傾向は、A尺度が高く、エゴグラムSHE60を開発した「TA学校心の開発研究所」山本昭一教授の解釈をお借りすると「学習や時間管理の自己コントロールの力」が高くなっていること。

男女別でいえば、男子は、A尺度が高くなっている。女子はNP尺度の「優しさによる人間関係力」が高い。

②家庭においては、全体と女子がFC尺度が高く「楽しさによる人間関係力」を発揮している。男子は、家庭において、「優しさによる人間関係力」が高くなっている。本校の高学年児童の心の成長の様子がよく表れている。

③報告者の学校の保護者である30代から40代の父親像と母親像を見ると家庭において父親の「優しさ」、母親の「楽しさ」という同様の傾向があり、交流分析でいう親の人生態度が10歳から12歳の高学年児童にプログラムとなって投影していることがわかる。

(2) 学校生活満足度アンケート調査(Q-U心理検査)との相関について

①「Q-U心理検査」の概要

・学級集団や教師の指導のために児童・生徒の学校生活の適応状況を把握するものである。

・クラスの仲間に承認されているか、いじめや冷やかしの侵害行為を受けていないを児童自ら質問紙に回答するものである。

・6つの質問事項から4段階選択し承認得点と被侵害行為得点の状況を把握し、満足群・非承認群・侵害行為認知群・要支援群の4群に分類する。

その結果にもとづき、学級担任等が指導・支援体制を整えるものである。日本教育カウンセリング協会や日本教育カウンセリング学会で多く活用され、全国100万名を超える児童・生徒が受けている心理検査である。ただし、この検査結果は、児童・生徒に返却されないというものである。質問紙の例を以下に示す。

②「Q-U心理検査」の質問紙の例

◆承認得点(縦軸) \*16点以下が非承認群

1 あなたは運動や勉強、係活動や委員会活動、しゅみなどでクラスの人からみとめられることがありますか。(4・3・2・1)

2 あなたが失敗したときに、クラスの人からはげましてくれることがありますか。(4・3・2・1)

3 クラスの中に、あなたの気持ちをわかってくれる人がいると思っていますか。(4・3・2・1)

4 あなたが何かしようとするとき、クラスの人たちは、協力してくれたり、おうえんしてくれたりすると思いますか。(4・3・2・1)

5 あなたのクラスには、いろいろな活動に取り組もうとする人が、たくさんいると思いますか。(4・3・2・1)

6 あなたが自分の思ったことや考えたことを発表したとき、クラスの人たちはひやかしたりしないで、しっかり聞いてくれると思いますか。(4・3・2・1)

◆被侵害得点(横軸) \*13点以上が侵害行為認知群

7 あなたはクラスの人にいやなことを言われたり、からかわれたりして、つらい思いをすることがありますか。(4・3・2・1)

8 あなたはクラスの人に、ぼう力をふるわれなどして、つらい思いをすることがありますか。(4・3・2・1)

9 あなたはクラスの人にばかにされるなどして、クラスにいたくないと思うことがありますか。(4・3・2・1)

10 あなたは休み時間などに、ひとりぼっちでいることがありますか。(4・3・2・1)

11 あなたは、クラスでグループをつくる時などに、すぐにグループに入れないで、最後のほうまで、残ってしまうことがありますか。(4・3・2・1)

12 あなたはクラスの人たちから、ムシされるようなことがありますか。(4・3・2・1)

③対象児の「Q-U心理検査」の結果

【表2】非承認群の割合(N=93)

	承認群	非承認群	人数
全体	73.1	26.9	100.0
男子	65.9	34.1	100.0
女子	78.8	21.2	100.0

【表3】侵害行為認知群の割合 (N=93)

	満足群	侵害行為認知群	人数
全体	80.6	19.4	100.0
男子	73.2	26.8	100.0
女子	86.5	13.5	100.0

・クラスの仲間から称賛や認められていると思っている児童は、全体で73.1%と高く、特に女子に多い。

・クラスの仲間からの疎外感を感じている児童は、全体の19.4%であり、男子に多い。

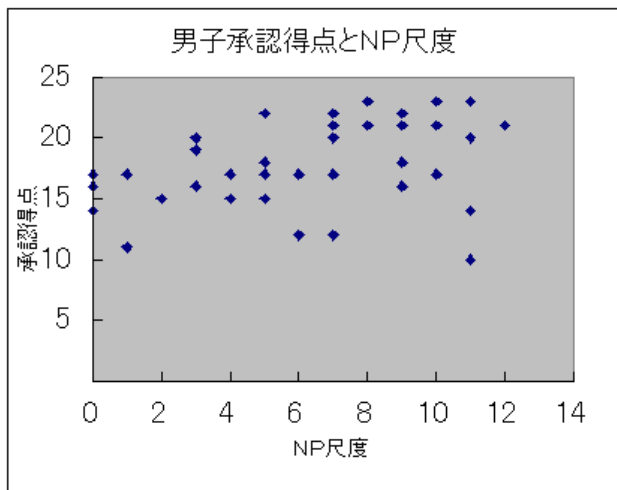
②「Q-U心理検査」と自我状態の相関について  
ピアソンの積率相関係数を利用し、有意水準0.05での相関を検討した。対象人数により相関関係の限界値も違うことから表の右脇に限界値を示した。

ア 承認得点との相関

【表4】承認得点と自我状態の相関関係

承認	学校							n	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	総計			
自我	CP	NP	A	FC	AC	総計	n	相関係数	
全体	0.042	0.347	0.230	0.090	0.036	0.260	93	0.205	
男子	0.167	0.361	0.209	0.359	0.095	0.380	41	0.305	
女子	-0.073	0.242	0.248	-0.215	-0.124	0.037	52	0.272	
承認	家庭							n	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	計			
自我	CP	NP	A <td>FC</td> <td>AC <td>計</td> <td>n</td> <td>相関係数</td> </td>	FC	AC <td>計</td> <td>n</td> <td>相関係数</td>	計	n	相関係数	
全体	-0.091	0.067	0.163	0.250	-0.210	0.057	93	0.205	
男子	-0.027	0.006	0.060	0.246	-0.199	0.020	41	0.305	
女子	-0.206	0.125	0.237	0.184	-0.222	0.060	52	0.272	

【図6】承認得点とNP尺度の関係図



①学校での自我状態

- ・対象児童全体では、NP尺度に正の相関がある。
- ・男子はNP尺度とFC尺度に正の相関がある。
- ・女子は、どの尺度にも相関がない。

②家庭での自我状態

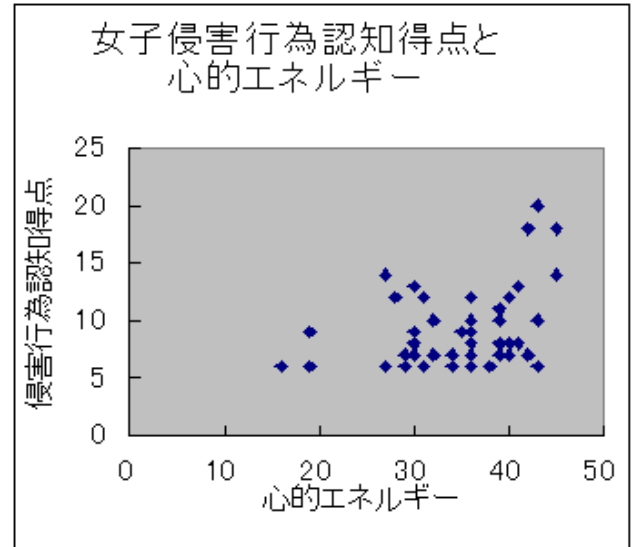
- ・対象児童全体では、FC尺度に正の相関がある。

イ 侵害行為認知との相関

【表5】侵害行為認知と自我状態の相関関係

侵害	学校						n	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	総計		
自我	CP	NP	A	FC	AC	総計	n	相関係数
全体	-0.020	-0.055	0.154	0.085	0.165	0.130	93	0.205
男子	-0.057	-0.179	0.160	-0.011	0.168	0.010	41	0.305
女子	0.028	0.173	0.152	0.204	0.274	0.335	52	0.272
侵害	家庭						n	相関係数 限界値
	CP	NP	A	FC	AC	計		
自我	CP	NP	A <td>FC</td> <td>AC <td>計</td> <td>n</td> <td>相関係数</td> </td>	FC	AC <td>計</td> <td>n</td> <td>相関係数</td>	計	n	相関係数
全体	-0.025	-0.035	0.020	0.048	0.140	0.080	93	0.205
男子	-0.006	-0.119	0.111	-0.032	0.019	-0.011	41	0.305
女子	-0.027	0.070	-0.051	0.168	0.245	0.193	52	0.272

【図7】侵害行為認知得点と心的エネルギー関係図



①学校での自我状態

- ・児童全体・男子の自我状態に相関が見られない。
- ・女子にAC尺度と総計(心的エネルギーの総和)に正の相関関係が見られる。

②家庭での自我状態

- ・侵害行為認知と家庭での自我状態には相関が見られない。

#### 4 考察

(1) 小学校高学年(5年・6年)における自我状態の特徴について

①全体傾向

ア 学校では、A尺度が高く、学習・時間管理ができていく傾向にある。

イ 家庭では、FC尺度、楽しさによる人間関係力を発揮できている。

②男子の傾向

ア 学校では、A尺度が最も高く、学習・時間管理能力を発揮している。

イ 家庭では、NP尺度・FC尺度がほぼ同位に発揮されており、M型のエゴグラムパターンであり、小学校高学年として明朗型の家庭生活が進められている。

ウ 学校・家庭のピークエゴグラムも同様の傾向にあり、ボトムエゴグラムからCP尺度・AC尺度の数が多いことから、自己主張力を高めることと自己抑制力を高めることが課題となる。

### ③女子の傾向

ア 学校では、NP 尺度・A 尺度が高く、優しさによる人間関係力と学習・時間管理がしっかりできている。

イ 家庭では、FC 尺度、NP 尺度が高く、楽しさと優しさによる人間関係を築いていることが分かる。

ウ 学校でのボトムエゴグラムから CP 尺度と FC 尺度を使っていないことが、うかがえる。自己主張力と自ら楽しさを発揮することが課題である。

(2) 学校生活満足度アンケート調査「Q-U心理検査」との相関について

①承認得点と自我状態の相関から

ア 男子は NP 尺度と FC 尺度を使って、クラスの承認を得ているといえる。優しさと楽しさによる人間関係力のある児童が人気者として、承認されている。また、総計（心的エネルギー）が高い児童、すなわち活動的で積極的な児童が承認されるといえる。

イ 女子の場合は承認得点と自我状態の相関はみられない。

②侵害行為認知と自我状態の相関から

ア 女子の場合、AC 尺度が高すぎると自己抑制型となり、侵害行為認知群となっている。

イ 女子の場合、総計・心的エネルギーの高い児童が積極的・活動的な行動で逆に侵害行為を受けやすいことが考えられる。

ウ 男子の場合は、自我状態との相関は見られない。

### 5 まとめ

(1) 対象とした高学年は、学習と諸活動に意欲的に取り組み、教師の指導も行き届いていることが、日常の観察からもうかがえる。A 尺度と NP 尺度が高く、当該児童が通う学校の教育目標「やさしく」「かしこく」「たくましく」が自我状態を表すエゴグラムでも具現化されている。

(2) 学級崩壊、いじめ、不登校も見られず、個性尊重と集団の規律維持の状況や学級・学校のようにエゴグラム平均値からもうかがえる。

(3) 「Q-U心理検査」の個々人の承認得点・侵害行為認知得点の相関から、男子は、優しく、楽しい児童が承認されることが分かった。

女子は、自己抑制力が高く、かつ行動的エネルギーのある児童が侵害行為を感じていることが分かった。

(4) 小学生も利用可能なエゴグラムが当会の TA 学校教育心の開発研究所で開発され、高校生まで標準化されている。小中学生用の標準化が待たれる。報告者は、長年、小中学校に勤務し、「Q

U心理検査」を扱ってきたが、個別指導に生かし切れないでいる。その中でエゴグラム SHE 60 は、たぐいまれな心理検査になるものと期待している。今回は、全国で100万人以上の児童生徒に使用され、学級崩壊・いじめ・不適應の改善に活用されている「Q-U心理検査」と当会のエゴグラム SHE 60 を組み合わせて利用することができるのではないかと考え、報告することとした。

### 6 今後の課題

(1) エゴグラム SHE 60 を開発した、山本昭一 TA 学校教育心の開発研究所所長は、A 尺度を「学習・時間のセルフコントロール力」と位置づけている。そのことから、A 尺度と「学力」の相関についても、検討を進めたい。

(2) 不登校、不適應への対応策として

侵害行為認知得点と女子の AC 尺度・心的エネルギー総量に相関があること。また小学校高学年児童全体の傾向として CP 尺度が低いことがあげられる。CP 尺度・自己主張力を高めることが不登校対策になると思われる。

本年度、不適應傾向で、数日間、欠席する児童が2名ほどあった。そのとき、役だったのがこのエゴグラム SHE 60 であった。2名とも、学校では、CP 尺度・FC 尺度が低く、AC 尺度が高かった。逆に、家庭では FC 尺度が高く、AC 尺度が低い傾向にあった。学校では、N 型タイプであった。

担任、養護教諭、管理職とチームを組んで、学校では、CP 尺度を高めることとして、アサーティブに自己主張が出来るよう支援した。教員にはストローク経済の5原則について解説し、児童に肯定的ストロークを与えることに取り組み、家族の協力も得ながら1ヶ月程度で改善できた。

このように、不適應対策としてエゴグラム SHE 60 の活用を進めて行きたい。

### 引用・参考文献

- 1 日本交流分析協会附属 TA 学校教育心の開発研究所：質問紙エゴグラム SHE 60 Manual（講座・授業用）
- 2 矢野正：小学生の自我状態の特徴と成績に関する検討、湊川短期大学、2008
- 3 日本交流分析協会：心理学系論文の書き方ガイドブック、2010
- 4 山本昭一：東北支部特別講座資料、2014、4月、10月
- 5 河村茂雄：Q-U入門、図書文化社、2006